

## 『かなや今昔物語』 コース

### ①金谷駅をスタート

### ②旧東海道石畳 (①から徒歩 10 分上り坂)

いにしへの街道の面影を今に伝える金谷坂の石畳



江戸時代、金谷坂は急坂なうえに「あおねば」と呼ばれる粘土層が露出しており、雨が降るとぬかるみ、大名行列や旅人は大変苦勞しました。そこで江戸時代末期、約 400 間 (約 720m) の石畳が「山石」を敷き詰めて造成されました。この時使われた山石は、牧之原台地の耕作土の下に厚く堆積している「牧之原礫層」に含まれている大井川の河原石と同じ丸石で、現在の大井川の河原石よりもザラついて滑りにくいものです。明治以降、電話線や電線等の敷設により掘り起こされ、その後舗装されたため、もとの面影は失われていました。

平成 3 年 (1991 年)、町おこし事業として「平成の道普請・町民一人一石運動」により、約 7 万 1000 個の「山石」を敷いた、430m の石畳が復元されました。

「旧東海道と石畳 (金谷坂)」は昭和 60 年 2 月 23 日に市指定文化財に指定されています。

### ③諏訪原城跡 (②上り口から徒歩 30 分)

「続 日本 100 名城に選定！」武田流築城を駆使した壮大な山城



諏訪原城跡は、戦国時代の東海道における戦略上の要地に位置し、はじめ武田信玄が砦を築き、その後天正元 (1573) 年、遠江侵攻の拠点・徳川氏に対する備えとして、信玄の子 武田勝頼が家臣 馬場美濃守信房 (ばばみののかみのぶふさ) に命じて、牧之原台地に築いた山城です。



武田家の守護神諏訪大明神を祀ったことからこの名が付いたと言われています。天正3（1575）年に徳川家康によって攻め落とされた後、「牧野城（まきのじょう）」と改名され、今川氏真や松平家忠らが城主となりました。やがて武田氏が滅亡すると、この城の必要性はなくなり、天正18(1590)年頃廃城となったと言われています。

この城の特徴は

- ・小夜の中山から菊川宿をへて、鎌塚・色尾に至る東海道と、城の背後に大井川が流れる交通の要衝に立地する。
- ・自然を巧みに利用した三日月堀や丸馬出しなど「甲州流築城法の典型」といわれる遺構（九分通り現存）。

昭和50（1975）年 国指定の文化財(史跡)、平成14（2002）年には追加指定を受けています。平成29（2017）年4月6日公益財団法人日本城郭協会により「続 日本100名城」に選定されました。

#### ④牧之原公園 （③から徒歩30分）

日本夜景遺産認定 大パノラマの眺望スポット！



広大な牧之原大茶園の一角にあるこの公園からの景観はとても美しく、正面には日本最高峰の富士山、右手には日本一深い湾である駿河湾とその向こうの伊豆半島、左手には南アルプスの山々、眼下には雄大に流れる大井川、そして周辺に広がる茶畑。ここからの眺めは、まさに日本を代表する景観と言えるでしょう。



牧之原公園からの夜景は「日本夜景遺産」に登録されており、市地の夜景と大井川や茶畑の明暗が、富士山や駿河湾のシルエットも含め絵画のように広がります。北側の斜面にはカタクリの群生地があり、3月下旬から4月上旬頃が見頃となります。



また園内には茶祖・栄西禅師の像があり、お茶のまち「金谷」のシンボルとなっています。

#### ⑤ふじのくに茶の都ミュージアム (④から徒歩1分)



日本一の大茶園牧之原台地に位置するお茶専門のミュージアムです。お茶の産業、歴史、文化、機能性を紹介する博物館のほか、小堀遠州ゆかりの日本庭園や茶室、綺麗さびのデザインに統一されたレストラン、ミュージアムショップがあります。また抹茶挽き体験、茶道体験、茶手揉み体験等を通して、楽しくお茶の魅力を学ぶことができます。



所在地	島田市金谷 3053-2
電話番号	0547-46-5588
営業時間	9:00～17:00(入館は 16:30 まで) 茶室は 9 : 30～16 : 00 まで (入館は 15 : 30 まで)
休業日	火曜日(祝日の場合は開館し、翌平日休館)・年末年始 ※臨時開館・休館することがあります
入場料	一般(15 歳以上) 個人 300 円 (団体 200 円) 大学生以下、70 歳以上、障害者手帳をお持ちの方 無料
駐車場	無料 乗用車 80 台、大型バス 4 台

⑥アウトレットモール建設予定地 (⑤から徒歩 10 分)



写真上部の白い建物はふじのくに茶の都ミュージアム

アウトレットモールは 2021 年 3 月開業予定